

崎津団地の借入金・健全化債(20年間)償還

総額34億8,400万円、元利/年23,700万円返済

中海の自然景観に恵まれた崎津アミューズメント用地(20ha)



隣地はJRA敷地

一時借入金から

「健全化債」へ

「和牛のオリンピック」会場に一役担った崎津団地の「塩漬け債務」の償還に、土地公社「経営健全化債」の適用が決まった。

今までの同団地の借金対策は、市からの低利の一時借入金を使って利息分を簿価価格に積み重ねていた。

現状だと、簿価価格と時価価格の格差が開き、差損が大きくなることから「健全化債」に切替えた。

債務総額は、三十四億八四〇〇万円。健全化債は、二十年返済で年間(元金均等)約二億三七〇〇万円。

「国策」誘導で

土地利用の促進へ

「健全化債」は、借金返済の借金対策に過ぎない。

同団地は、土地を有効に活用し、地域の経済効果を上げる事業化が目的である。

今まで、土地の有効活用を巡って施策議論が展開されてきた。現状は、「場外馬券場」で止まっている。

現在も、借地を条件に企業進出や部分買取りの情報もある。決定打はない。

同団地の面積規模(20ha)と債務規模から、「一括」利用の施策転換が迫られる。その構想は、「国策」の誘導を計ること。

成金の力

トップセールス

「国策」を計るために、知事の支援は絶対的条件。

市長は、「崎津団地」の土地活用で、知事とどんな協議を重ねているのか、明確な返事が返ってこない。

市長の、「崎津団地」の土地活用にむけたトップセールスが問われている。

施設分轄！加茂中の学習環境最悪

市長「市道計画優先」・特別教室の現地建替え



計画線上に建っている管理教室棟(右側)
(左側) 建替えが迫られている特別教室

学び舎の環境を守ろう！

全面移転総事業費 35億5千万円
現在地での事業費 23億8千万円

「計画路線変更」と「学校全面移転」を迫られている「市道安倍、三柳線計画」問題で、市長は「特別教室棟は、現在地での建替えが最善だ。」と表明した。

この市長表明は、「市道計画」を優先し、市道計画にかかる学校施設は、現在地で「移転・分割」し、整備する考えを基にしたものである。

同計画路線は、前市長時代に「財政事情が整うまで事業を凍結」という経緯がある。

この背景に、現在地で施設の「部分移転」は、学校施設が道路で分断され、排ガス、

騒音等から生徒、先生の健康問題等、学習環境を壊すという訴えの「学校全面移転」を求める陳情書が、加茂、河崎校区から市議会に提出され全会一致で採択されている。

平成十二年五月には、教育長名で、「移転候補地の一旦白紙と移転事業再開の協議」の確約書面が地元にある。

今回の市長表明は、当時の地元協議と市議会の陳情書採択等の経緯を全く無視したものとなっている。

まちづくり

学校は置き去りか！

「まちづくり」に、学校のことには頭を悩ませるのか。

道路計画が優先し、学校の環境問題が置き去りにされている現状に、現場と住民から憤りの声が挙がっている。

同計画の終点に、加茂小の施設もある。大型道路に囲まれる学校施設のあり方が「学び舎の環境」に適しているのか改めて問われている。

加茂中「全面移転」と「市道計画」の路線変更は、二者択一の問題ではない。